

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年8月22日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470205588		
法人名	株式会社 広島厚生会		
事業所名	グループホーム広島萬象園		
所在地	広島県広島市中区羽衣町1-26 (電話) 082-246-3260		
自己評価作成日	平成30年7月23日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3470205588-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年8月9日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

高齢者複合施設として、シルバーマンション、有料老人ホーム、グループホームの入居施設があり、住み替えが可能。また、デイサービス、ホームヘルプステーションの介護サービスも同施設で行っている。毎月開催される行事を通じて施設内の交流を深めている。グループホーム内では、入居者の意思を尊重し、安全安心を基本とした日常生活を提供している。一人一人の「できること」「援助が必要なこと」を見極め、出来る自分を心地よく感じてもらい残存機能を維持できるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

入居者・利用者同士の相互交流を促進し、昔の「向こう三軒両隣りのお付き合い」を想わせる人情味豊かな交流が生まれ、利用者の行動力と活力の源泉となっている。訪問当日も、レクリエーション（「食レク」と呼称）として、参加者全員がエプロン掛けで調理をし、施設合同の昼食会が開催されており、社会とつながり、活動を伴う「生活リハビリ」実践の場面が見られた。管理者は、「ここは、みんなの家庭的空間」と強調し、自宅ではできなかったことの補完、過度に医療と薬に頼らない「高い介護力」で、利用者の生活を支援している。運営母体が医療法人である組織力を生かし、医療・福祉連携の体系的な職員教育と福利厚生を充実させ、職員の労働意欲と定着率の高さを顕示している。

自己評価	外部評価	項目(パティシエ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	「地域社会に愛され役立つ施設として、利用者様それぞれの尊厳を守り、生活意欲を高め充実した日々、安全な生活を快適に維持し実感して頂く」という法人理念を会議で取り上げ職員一人となり施設を運営している。	法人の福祉部門の目標に基づき(※)QSCVの観点から数値化・評価して理念の徹底を図っている。また、事業所が独自に立案した年度目標「健康で自由気ままに暮らす」を基に、職員一人ひとりが考えて個人目標を立て、半年ごとに評価し、理念の周知と実践に繋げその徹底を図っている。	※補足)QSCVについて: QUOLITY (品質)・SERVICE (サービス)・CLEANLINESS (清潔さ)・VALUE (付加価値)の略。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域内の喫茶店やレストランへ食事に行ったり、商店、コンビニに買い物に行き、交流を持っている。地域住民の参加を目的に萬象園祭りや花火大会を開催し、地域とのつながりを深めている。	町内会の一員として、地域のとんど祭りに参加のほか、「萬象園祭り」では、職員手作りの屋台を出し、近所の大人や子供達も集まり賑わっている。毎年幼稚園との相互交流、ボランティアによる三味線やフラダンス、高校生の職場体験などを地域交流として積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	電話相談や施設見学、介護サービスの利用相談に応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	入居者様、家族様、町内会役員、居宅事業所、有料老人ホーム、地域包括支援センターの参加で偶数月に開催している。運営全般について報告を頂いている。新たなことを始めている場合も会議に載せている。また、事故や苦情についても明らかにしている。	会議への利用者全員参加がこの事業所の特徴で、それを中心に家族、職員、地域包括支援センター、町内会、施設内他事業所の責任者をメンバーとして開催されている。時には大学実習生も加わり、事業所の現状や行事、委員会報告がされ、議事録は、欠席家族にも郵送されている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	日頃から利用者様の利益の為に、サービス内容についての問い合わせ、対応などを行っている。また、市が主催する研修会に参加し、施設内でも勉強会を行っている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加し情報共有を図っている。中区担当者と規程改正等について管理者が直接電話で相談し助言、指導を仰いでいる。また、市主催の各種研修会に参加受講し、その内容を事業所内で伝達講習により衆知を図っている。	

自己評価	外部評価	項目(パティシエ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束禁止委員会を発足し、委員会の結果は全職員に議事録を回覧し周知徹底している。職員研修も行い、身体拘束をしないケアを目的に定期開催を予定している。	この事項については、今年度特に強化し、新たに委員会を設け、年2回の内部研修を通じて徹底を図っている。玄関は、職員が少ないときに限り安全対策上、施錠している。夜間は、足元が覚束ない利用者に限り、安全上センサーマットを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部の研修会への参加や施設内で権利擁護、プライバシーの保護、虐待についての勉強会を実施している。安全委員会では事例を通して職員に質問形式として自分を振り返る等、啓発運動を継続的に行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	集団指導研修などの外部研修で学び、職員へ周知している。相談があれば各種機関の資料を準備し説明の上相談先へ繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書に沿って説明し、ご理解頂いた上で契約書に署名をお願いしている。電話での問い合わせにも丁寧な説明を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議で質疑し、議事録を開示している。苦情は施設以外の公的機関へ申し立てが出来る事を伝えている。苦情は受付後、解決まで対応し、対策が継続して行われているかの確認も行っている。	利用者全員が参加する運営推進会議の中で、また日々の触れ合いの中から、要望を汲みとっている。家族とは、行事や面会の時を積極的に活用し、その内容は「ご家族からの相談指摘ノート」に記録、課題共有し、その要望に応えている。	

自己評価	外部評価	項目(パティシエ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	行事、日課、業務内容、入居者様の思い等は、会議や各委員会で意見交換を行っている。入居者様がより良い生活を送れるよう、職員皆で努力している。	月1回の2ユニット合同のグループホーム会議と、(※)3委員会で意見交換を図っている。サブマネジャーが管理者と職員の仲立ちをして話し易い雰囲気づくりをしている。また、施設内の3事業所を統括する施設長の常駐があり、要望・意見への対応の早さを特徴としている。	※補足)3委員会活動：全職員が分担して、「安全委員会」・「介護サービス委員会」・「生活環境委員会」の3部門の専門委員会を組織している。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	半期毎に個人面談を行っている。各自のレベルに応じて目標を立てている。経験や習熟度により責任のある職位を任せバックアップしている。資格の取得の為に個人学習をする場合、勤務に配慮をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修への参加と、施設内学習会を2本立てで実施している。施設内学習は、介護、医療、接遇と各種のテーマで系統を立てて行っている。新人学習会も4月から12月にわたり、実施している。また、習得を奨励し自己学習については休務の希望も受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	居宅や他の施設と交流をしたり、定期的な委員会の報告会や勉強会を行ったりしている。また、合同運営推進会議を8月に予定しており、他事業所との交流も持っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に本人様と家族様に面談を行い、家族様からの情報と合わせて、本人様の心情を汲み取っている。本人様の情報は、職員間で共有し、信頼関係を築き、安心感が持てるケアを行っている。		

自己評価	外部評価	項目(パティシエ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族様等の要望に対して、家族様との面談を設け、個別に話をする事で、本人様、家族様双方が無理なく生活できる様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居判定会議を行い、入居に至るまでの経緯を明確にし、多職種とも話をする事で、入居時に本人様に対して何を援助していくかの方針をかためサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家事仕事等本人様に適した役割を持って頂く事で、充実した日常を送り、共に喜び感謝の意を職員が表している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、日々の生活の様子を写真と一緒に郵送している。面会時には本人様の様子を都度伝えている。また、外出のサポートや行事の際、家族様と過ごして頂く企画を提案している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族様に、大切にしていた思い出の写真等に名前を記入して頂き、写真を見ながら職員と一緒に話しをしている。家族様との外出や外泊、親戚や友人との面会を自由にして頂いている。	昨年から(※)「ミッケルアート回想法」の活用のほか、バス停が事業所前にあり、路線バスで馴染のデパートに買い物や喫茶店に出かけている。また、複合施設の特徴を生かし施設行事で知り合った入居者・利用者同士が上・下階を往来する情景も観察された。	※補足)「ミッケルアート回想法」：クイズ性を持たせた昔懐かしい絵画を使って、職員・利用者同志の会話を弾ませ利用者のニーズを引き出すもの。昼夜逆転の改善、帰宅願望の改善、パニックの改善などの周辺症状の緩和事例が立証されている。

自己評価	外部評価	項目(パティシエ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ユニット内の人間関係が良好に保てる様、気の合う方を見つけられる場所などを提供し、職員が仲介をする事で、気の合う方を見つけている。また、職員が全体を把握することでトラブル回避に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	不定期だが、住み替えをされた方に会いに行き、本人様の状態に応じた声掛けで過去の居住空間を思い出して頂いている。家族様に会った際も話を傾聴している。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様の思いを知り、介護計画を作成している。意思の表出が困難な方は、家族参加型ケアプラン会議で家族様から生活歴や生活習慣等の情報を得て、本人の言動や表情を探りながら、職員間で検討している。	「ミッケルアート回想法」により昔の写真等を見ながら利用者とお話しする中で新たな気づきを探ったり、口数の少ない利用者には、日頃の表情・動作から思いの把握に努めている。おむすびに「きな粉」をつけて職員と一緒に食した事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面談時から情報収集に努めている。入居後も関わっていた事業者、本人様、家族様から情報を得て、住み替えのダメージが軽減できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	法人で決められた基準を元に、毎日ADL、QOLの評価を行い、入居者様一人ひとりの状態変化の把握に努めている。また、変化があった事等は記録に記している。		

自己評価	外部評価	項目(パティシエ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人様、家族様の思いを確認し、医師、看護師、栄養士などと連携を図り、本人様が「できるという心地よい気持ち」を持てるような介護計画を作成している。変化があれば都度見直し、職員に周知している。6ヶ月で短期目標を、12か月で長期目標の全てを評価し、生活援助に反映させている。</p>	<p>毎月の事業所全体会議で利用者の意見を確認し、半年ごとに家族も参加するケアプラン会議に反映されている。医療法人の医療・介護連携の機能をきめ細かく計画に反映させ、決定事項については職員全員が押印確認している。重点事項についてはモニタリングで経過確認をしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>様々な生活場面での言動、表情、仕草を観察し、ケース記録に記載している。日々の申し送りで情報を共有し、新たなニーズやリスクが生じていないかを確認しながら、残存能力維持を目標に本人様の力を引き出すような介護計画を作成するよう努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>食欲の低下した入居者には、献立以外で本人が食べやすい物を準備し勤めている。また、複合施設の特徴を活かし他の階と協力して行っているクラブ活動への参加を勧めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>ボランティアの協力で活気のある音楽レクを実施したり、習字を習い展示するなど生活の質を充実させている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時、どの医療機関を受診するかを確認し、主治医を定めて頂いている。提携病院からは神経内科、歯科の往診がある。年1回は健診を実施し健康維持に役立っている。看護師や職員は、家族様や医療従事者と連携をとっている。</p>	<p>利用者の9割が、協力医をかかりつけ医とし、週1回、内科・歯科往診があり眼科等専門科は職員が付添って通院している。「誕生日検診」では関連の病院でMRI等を検診を実施している。施設(3F)保健室には看護師の常駐があり、利用者の日々の変化を詳細に記録している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(パティシエ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>介護職員は、入居者様それぞれの観察点や注意点を熟知しており、毎日の健康チェックの結果や症状、訴えを施設看護師へ報告し、必要時は指示を受けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中、ほぼ毎日洗濯物を取りに行くことで、不安や混乱が軽減するよう関わっている。病棟の看護師とも情報交換を行っている。退院後は主治医の指示を守った生活を援助している。主治医、施設看護師の助言を得て、安全に生活できるよう援助している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>身体に変化がみられる方は、家人との面会時、都度状況を説明している。身体介護中心となった場合など重要事項説明書の手順で住み替えの話を行い、経過をフォローしている。</p>	<p>「看とりは行わない」ことを基本方針とし、重度化した場合は医療対応の充実した施設でとの方針で、入所契約時にその対応について書面で説明している。その選択肢として同施設内の有料老人ホームや法人内の他施設への住み替えの紹介等を行っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>看護師の指導のもと、施設内で系統立てて医療学習会を行っている。緊急対応や医療機器の保管場所の把握、緊急輸送時の連絡体制など、実践に向けた学習を積み重ねている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>災害時の対処については、マニュアルを整備している。避難訓練は入居者も参加し年2回実施している。町内会長や民生委員を通じて、地域住民に災害時の協力をお願いしている。</p>	<p>住宅地に立地して、当施設が地域の公的避難場所にも指定されている。避難訓練の内1回は夜間を想定している。災害に備えて食料品も備蓄されている。地域との協力強化については、さらに具体的な取組みについて協力要請を図っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(パティシエ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	サービス委員会が中心になり、全職員が接遇に沿った介助を心掛ける取り組みを実施している。排泄誘導等尊厳に関わることはさりげなく行うなど配慮している。個人ファイルはヘルパーステーション内で管理している。	今年度は「介護サービス委員会」が中心に外部講師による接遇マナー講習を開き、利用者との言葉使いの重要性について学習を深めている。排泄確認は同性が行う配慮もしている。個人情報については、写真の利用は事前の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	理解できる内容をゆっくりと分かりやすく説明している。選択肢を提供することで、本人様の意思決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	観葉植物や生け花に興味を持っていた際、職員が共に水をやったり、花を生けかえたりする。個別対応可能な時は外出したいという希望に応えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	出張理容で理容を受け、清潔感を保っている。環境委員会が中心となり利用者様の整容など曜日を決め、こまめに実施している。化粧をする入居者様に「綺麗」と褒めて継続に繋げている。外出時職員が手伝い、更衣や化粧を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は施設が提供するが、毎日ご飯つきと味噌汁つきは、入居者様と行っている。週に1回、昼食を入居者様と職員で作っている。食材の買い物も前日に入居者様と職員で出掛けている。野菜の下ごしらえや簡単な調理を一緒に行い、食後の食器拭きや机拭きも入居者様が役割分担している。	週1回、利用者のクラブ活動として、同施設の上・下階の住人が集まり、全員で昼食の調理に加わり、みんなで食卓を囲み談笑を交えた食事会を楽しんでいる。一方、給食会議で意見を集約し献立を決めているが、各人の好みに応じた個別化のメニューも提供している。	

自己評価	外部評価	項目(パティシエ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事開始時間、食事はそれぞれの入居者様の生活習慣に合わせている。嚥下や咀嚼の状態により食事形態を変更し、医師の指示の治療食にも対応している。1日の食事量や水分量を把握し、少ない入居者様には食事以外で好みの飲み物を勧めている。体重の変化も観察している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアを行い、歯肉の状態を維持するよう努めている。声掛けや物品を手渡す事で、自発的な動作を促している。変化があれば、歯科往診時に相談している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>日中は個々の排泄パターンに合わせて声掛けをすることで、トイレで排泄できるよう援助している。排泄の失敗やパットの使用量の減少、布パンツの使用の継続に繋がっている。動作は出来るところまで本人様に行ってもらっている。</p>	<p>トイレの排泄では、パンツの上げ下ろしも自分の出来る範囲で行えるよう、自立に即した支援をしている。トイレ誘導も利用者の表情と動きをよく観察し、適切な声掛けにより失敗を減らし、布パンツ使用の継続につなげており、現在は、オムツの使用者はいない状況にある。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>定期的に排便があるよう、医師の指示通りに緩下剤の内服を介助している。腹部マッサージや温療法を行ったり、乳製品を好みに合わせて提供し、通じをよくする等職員が援助し、気付いたことを共有し実施している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>「入りたい」という気持ちを持って入浴して頂けるよう支援し、無理強いない入浴を職員間で共有している。難しい時は時間帯や日にちを変えて再度入浴の声掛けを行っている。</p>	<p>4人が同時に入浴できる大浴場と、他に機械風呂の2つが設置され、大浴場は銭湯の趣を持ち、仲良し同士で入る交流の場としても入浴を楽しんでいる。入浴介助者には、けがや皮膚状態の確認の場でもあり、入浴を嫌がる人には、声掛けに趣向を凝らし誘導している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(パティシエ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	起床時間は、夜間の睡眠の様子 や朝の覚醒の状態を見て声掛け をしている。夜間眠れない方へ、 寄り添い安心できる対応をして いる。日中短時間居室で午睡し たり、ソファベッドで休憩をと って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	一人一人の疾病と服薬内容を理 解し、確実に内服できるように 介助している。副作用について も施設看護師から申し送りがあ る。薬の変更や追加があった場 合は、言動に注意しふらつきや 転倒の危険が少ないよう見守り を強化している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	クラブ活動を通じて趣味を続け る事を援助したり、身体を動か すゲームを行っている。レク中 でリーダー的な役割を任せるこ ともある。手芸や家事的動作に ついて、入居者様の得意な分野 を見極め勧めしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける よう支援している。	外出した時の表情が良いことから 、散歩、参拝、喫茶、外食、花 見等で外出機会を持っている。 デパートに行きたいと希望があ れば、家族様に相談の元、職員 と1対1でタクシー等を利用し 出掛けている。	通り抜けの広いベランダが、外 気に触れる散歩道の機能を果 たし、施設の菜園で野菜の世話 や収穫など活動的な支援を行 っている。家族と一緒に近くの 神社に参拝、職員と路線バス でデパートに買い物、ウインド ウショッピングなど、外出に適 した地理的環境に恵まれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	本人様が所持している小銭をみ ると、自宅の家賃が心配で困惑 される為、基本的にはお金は家 人様に管理して頂いている。小 銭を見て数え所持している事 で安心する方は他者とのトラブ ルが無いよう援助し所持してい る。買いたいものは一緒に選 び、一旦立て替えている。		

自己評価	外部評価	項目(パティシエ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状などを家族へ書いたりする。職員は本人が出来ない部分を手伝っている。また、生活上の不安等で、家族との電話を希望される方へは、電話し安心できるように援助している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日中、夜間共に照明を調整し、明るい雰囲気になっている。食堂兼リビングは広いベランダへと続いており、明るい開放感がある。室内も室外も花を飾り、季節感を出している。壁には行事予定の張り紙や、入居者様の作品、外出の写真が提示され、展示品を見ながら交流している。	「開放的な共有空間」を基本構想に2つのユニットの共有空間を連結して視界を広くする設計…。壁に展示された理事長創作のアートや高級感のある家具とが調和され、利用者の居心地良さを演出している。昼間は、利用者の生活リハも兼ねた社交場の機能も果たしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人で気に入ったソファや椅子に腰かけ、新聞や雑誌を見て自分のペースで過ごしたり、リビングのテーブル席やソファで2,3人でおしゃべりをしながら自然に交流を持っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や小物を置いたり、家族様の写真を飾ったりしている。観葉植物も家族が持ち込み育てる事で本人様の気持ち良い環境をつくっている。	基本設備に、ベット、空調設備、防災カーテンを備え、仏壇を持ち込む人、化粧鏡でお化粧を楽しむ人など、これまでの生活の延長線上に調度品を配列している。各自の部屋を覚えることも自立の1つとして、居室の入口には名札等の表示はされていない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	職員と一緒に家事を行ったり、トイレに手摺がある事で出来ない所をさりげなく助け安全に配慮しながら出来る動作を行ってもらっている。安全重視で管理的にならないよう、申し送りの中でケアの統一の為、情報の共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(リバレンス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	「地域社会に愛され役立つ施設として、利用者様それぞれの尊厳を守り、生活意欲を高め充実した日々、安全な生活を快適に維持し実感して頂く」という法人理念を会議で取り上げ職員一丸となり施設を運営している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域内の喫茶店やレストランへ食事に行ったり、商店、コンビニに買い物に行き、交流を持っている。地域住民の参加を目的に萬象園祭りや花火大会を開催し、地域とのつながりを深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	電話相談や施設見学、介護サービスの利用相談に応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	入居者様、家族様、町内会役員、居宅事業所、有料老人ホーム、地域包括支援センターの参加で偶数月に開催している。運営全般について報告を頂いている。新たなことを始めている場合も会議に載せている。また、事故や苦情についても明らかにしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	日頃から利用者様の利益の為に、サービス内容についての問い合わせ、対応などを行っている。また、市が主催する研修会に参加し、施設内でも勉強会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(リバレンス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束禁止委員会を発足し、委員会の結果は全職員に議事録を回覧し周知徹底している。職員研修も行い、身体拘束をしないケアを目的に定期開催を予定している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部の研修会への参加や施設内で権利擁護、プライバシーの保護、虐待についての勉強会を実施している。安全委員会では事例を通して職員に質問形式として自分を振り返る等、啓発運動を継続的に行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	集団指導研修などの外部研修で学び、職員へ周知している。相談があれば各種機関の資料を準備し説明の上相談先へ繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書に沿って説明し、ご理解頂いた上で契約書に署名をお願いしている。電話での問い合わせにも丁寧な説明を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議で質疑し、議事録を開示している。苦情は施設以外の公的機関へ申し立てが出来る事を伝えている。苦情は受付後、解決まで対応し、対策が継続して行われているかの確認も行っている。		

自己評価	外部評価	項目(リバランス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	行事、日課、業務内容、入居者様の思い等は、会議や各委員会で意見交換を行っている。入居者様がより良い生活を送れるよう、職員皆で努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	半期毎に個人面談を行っている。各自のレベルに応じて目標を立てている。経験や習熟度により責任のある職位を任せバックアップしている。資格の取得の為に個人学習をする場合、勤務に配慮をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修への参加と、施設内学習会を2本立てで実施している。施設内学習は、介護、医療、接遇と各種のテーマで系統を立てて行っている。新人学習会も4月から12月にわたり、実施している。また、習得を奨励し自己学習については休務の希望を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	居宅や他の施設と交流をしたり、定期的な委員会の報告会や勉強会を行ったりしている。また、合同運営推進会議を8月に予定しており、他事業所との交流も持っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に本人様と家族様に面談を行い、家族様からの情報と合わせて、本人様の心情を汲み取っている。本人様の情報は、職員間で共有し、信頼関係を築き、安心感が持てるケアを行っている。		

自己評価	外部評価	項目(リバランス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族様等の要望に対して、家族様との面談を設け、個別に話をする事で、本人様、家族様双方が無理なく生活できる様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居判定会議を行い、入居に至るまでの経緯を明確にし、多職種とも話をする事で、入居時に本人様に対して何を援助していくかの方針をかためサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家事仕事等本人様に適した役割を持って頂く事で、充実した日常を送り、共に喜び感謝の意を職員が表している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、日々の生活の様子を写真と一緒に郵送している。面会時には本人様の様子を都度伝えている。また、外出のサポートや行事の際、家族様と過ごして頂く企画を提案している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族様に、大切にしていた思い出の写真等に名前を記入して頂き、写真を見ながら職員と一緒に話しをしている。家族様との外出や外泊、親戚や友人との面会を自由にして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目(リバレンス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ユニット内の人間関係が良好に保てる様、気の合う方を見つけられる場所などを提供し、職員が仲介をする事で、気の合う方を見つけている。また、職員が全体を把握することでトラブル回避に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	不定期だが、住み替えをされた方に会いに行き、本人様の状態に応じた声掛けで過去の居住空間を思い出して頂いている。家族様会った際も話を傾聴している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様の思いを知り、介護計画を作成している。意思の表出が困難な方は、家族参加型ケアプラン会議で家族様から生活歴や生活習慣等の情報を得て、本人の言動や表情を探りながら、職員間で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面談時から情報収集に努めている。入居後も関わっていた事業者、本人様、家族様から情報を得て、住み替えのダメージが軽減できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	法人で決められた基準を元に、毎日ADL、QOLの評価を行い、入居者様一人ひとりの状態変化の把握に努めている。また、変化があった事等は記録に記している。		

自己評価	外部評価	項目(リバレンス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人様、家族様の思いを確認し、医師、看護師、栄養士などとの連携を図り、本人様が「できるという心地よい気持ち」を持てるような介護計画を作成している。変化があれば都度見直し、職員に周知している。6ヶ月で短期目標を、12か月で長期目標の全てを評価し、生活援助に反映させている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>様々な生活場面での言動、表情、仕草を観察し、ケース記録に記載している。日々の申し送りや情報共有し、新たなニーズやリスクが生じていないかを確認しながら、残存能力維持を目標に本人様の力を引き出すような介護計画を作成するよう努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>食欲の低下した入居者には、献立以外で本人が食べやすい物を準備し勤めている。また、複合施設の特徴を活かし他の階と協力して行っているクラブ活動への参加を勤めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>ボランティアの協力で活気のある音楽レクを実施したり、習字を習い展示するなど生活の質を充実させている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時、どの医療機関を受診するかを確認し、主治医を定めて頂いている。提携病院からは神経内科、歯科の往診がある。年1回は健診を実施し健康維持に役立っている。看護師や職員は、家族様や医療従事者と連携をとっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(リバレンス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>介護職員は、入居者様それぞれの観察点や注意点を熟知しており、毎日の健康チェックの結果や症状、訴えを施設看護師へ報告し、必要時は指示を受けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中、ほぼ毎日洗濯物を取りに行くことで、不安や混乱が軽減するよう関わっている。病棟の看護師とも情報交換を行っている。退院後は主治医の指示を守った生活を援助している。主治医、施設看護師の助言を得て、安全に生活できるよう援助している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>身体に変化がみられる方は、家人との面会時、都度状況を説明している。身体介護中心となった場合など重要事項説明書の手順で住み替えの話を行い、経過をフォローしている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>看護師の指導で施設内で系統立てて医療学習会を行っている。緊急対応や医療機器の保管場所の把握、緊急輸送時の連絡体制など、実践に向けた学習を積み重ねている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>災害時の対処についてはマニュアルを整備している。避難訓練は入居者も参加し年2回実施している。町内会長や民生委員を通じて、地域住民に災害時の協力をお願いしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(リバレンス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	サービス委員会が中心になり、全職員が接遇に沿った介助を心掛ける取り組みを実施している。排泄誘導等尊厳に関わることはさりげなく行うなど配慮している。個人ファイルはヘルパーステーション内で管理している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	理解できる内容をゆっくりと分かりやすく説明している。選択肢を提供することで、本人様の意思決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	観葉植物や生け花にに興味を持っていた際、職員が共に水をやったり、花を活け替えたりする。個別対応可能な時は外出したいという希望に応えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	出張理容で理容を受け、清潔感を保っている。環境委員会が中心となり利用者様の整容など曜日を決め、こまめに実施している。化粧をする入居者様に「綺麗」と褒めて継続に繋げている。外出時職員が手伝い更衣や化粧を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は施設が提供するが、毎日ご飯つきと味噌汁つきは、入居者様と行っている。週に1回、昼食を入居者様と職員で作っている。食材の買い物も前日に入居者様と職員で出掛けている。野菜の下ごしらえや簡単な調理を一緒に行い、食後の食器拭きや机拭きも入居者様が役割分担している。		

自己評価	外部評価	項目(リバレンス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事開始時間、食事量はそれぞれの入居者様の生活習慣に合わせている。嚥下や咀嚼の状態により食事形態を変更し、医師の指示の治療食にも対応している。1日の食事量や水分量を把握し、少ない入居者様には食事以外で好みの飲み物を勧めている。体重の変化も観察している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアを行い、歯肉の状態を維持するよう努めている。声掛けや物品を手渡す事で自発的な動作を促している。変化があれば歯科往診時に相談している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>日中は個々の排泄パターンに合わせて声掛けをすることで、トイレで排泄できるよう援助している。排泄の失敗やパットの使用量の減少、布パンツの使用の継続に繋がっている。動作は出来るところまで本人様に行ってもらっている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>定期的に排便があるよう、医師の指示通りに緩下剤の内服を介助している。腹部マッサージや温療法を行ったり、乳製品を好みに合わせて提供し、通じをよくする等職員が援助し、気付いたことを共有し実施している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>「入りたい」という気持ちを持って入浴して頂けるよう支援し、無理強いない入浴を職員間で共有している。難しい時は時間帯や日にちを変えて再度入浴の声掛けを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(リバレンス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>起床時間は夜間の睡眠の様子や朝の覚醒の状態を見て声掛けをしている。夜間眠れない方へ寄り添い安心できる対応をしている。日中短時間居室で午睡したり、ソファベッドで休憩をとって頂いている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>一人一人の疾病と服薬内容を理解し、確実に内服できるように介助している。副作用についても施設看護師から申し送りがある。薬の変更や追加があった場合は、言動に注意しふらつきや転倒の危険が少ないよう見守りを強化している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>クラブ活動を通じて趣味を続ける事を援助したり、身体を動かすゲームを行っている。レクの中でリーダー的な役割を任せることもある。手芸や家事的動作について、入居者様の得意な分野を見極め勧めしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>外出した時の表情が良いことから、散歩、参拝、喫茶、外食、花見等で外出機会を持っている。デパートに行きたいと希望があれば、家族様に相談の元、職員と1対1でタクシー等を利用し出掛けている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>本人様が所持している小銭をみると、自宅の家賃が心配で困惑される為、基本的にはお金は家人様に管理して頂いている。小銭を見て教え所持している事で安心する方は他者とのトラブルが無いよう援助し所持している。買いたいものは一緒に選び、一旦立て替えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(リバレンス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>年賀状などを家族へ書いたりする。職員は本人が出来ない部分を手伝っている。また、生活上の不安等で、家族との電話を希望される方へは、電話し安心できるように援助している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>日中、夜間共に照明を調整し、明るい雰囲気になっている。食堂兼リビングは広いベランダへと続いており、明るい開放感がある。室内も室外も花を飾り、季節感を出している。壁には行事予定の張り紙や、入居者様の作品、外出の写真が提示され、展示品を見ながら交流している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>一人で気に入ったソファや椅子に腰かけ、新聞や雑誌を見て自分のペースで過ごしたり、リビングのテーブル席やソファで2,3人でおしゃべりしながら自然に交流を持っている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>使い慣れた家具や小物を置いたり、家族様の写真を飾ったりしている。観葉植物も家族が持ち込み育てる事で本人様の気持ちの良い環境をつくっている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>職員と一緒に家事を行ったり、トイレに手摺がある事で出来ない所をさりげなく助け安全に配慮しながら出来る動作を行ってもらっている。安全重視で管理的にならないよう、申し送りの中でケアの統一の為、情報の共有を行っている。</p>		

V アウトカム項目(パティシエ) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V アウトカム項目(リバレンス) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム広島萬象園

作成日 平成30年10月9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	40	食事を施設外での特別な楽しみが少ない。年に数回は外食し、屋外での刺激が必要。	年1~2回は、入居者全員で外食を楽しむ企画をする。	外食日までに入居者様の体調管理や体力の強化を行う。	11月以内
2	4	運営推進会議の出席で地域住民の方の参加が少ない。	運営推進会議に地域住民の方が参加することで繋がりを深める。	8月の合同運営推進会議で交流が持てた、町内会長と民生委員に出席して頂く。	10月以内
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。